

全国大会

福井商工会議所青年部会報

福居



会報

第 19 号

昭和60年11月9日発行

発行所

福井商工会議所青年部会

発行責任者

淡島 洋

きょう全国大会

ようこそ福井へ



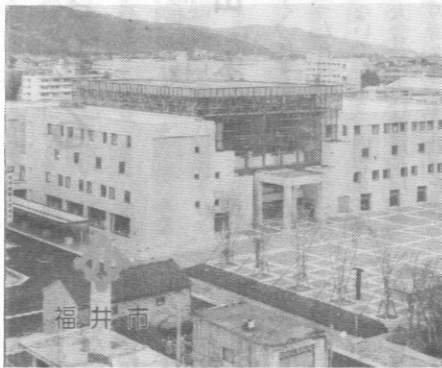
大会会長 淡島 洋

いかが映りましたでしょうか。

福井市市民憲章(不死鳥のねがい)の原文に『わたくしたちは、

昭和二十年七月、B-29の大編隊が福井を空襲し、文字通り焼け野原となり、じよよに復興のきざしが見えはじめた。その上、二十三年六月、大地震も襲い再び虚と化し、これで我が福井は壊滅状態となりました。このたび重なる大災害にもめげず今日みごとに立ち直った福井は、皆様の目には

不死鳥福井の市民であることに誇りと責任を感じ、郷土の繁栄と幸福をきずくため、力を合わせ、不屈の気概をもって、このねがいを『つらぬきましょう』とあります。決して死に絶えることのない不死鳥。このフェニックスの精神を礎とする街・福井へ全国の青年部の皆様ようこそおいでくださいました。心から歓迎申し上げます。



福井市

さて、私達商工会議所青年部の活動も各々の地域でじよよに根をおろしてきています。ともに、各商工会議所の文化・経済活動において、その先兵としての活性的役割を果たし

てきているように思われます。今後、さらに日本経済のソフト化・情報化・国際化が進むにつれて、今までの社会常識や経済常識では推し量る事のできない状況が表面化してくるものと思われれます。しかし、私達は青年部活動を通じ、青年経済人としての経営感覚をつねに養えるとともに異業種の交流を通じて、新しい時代の経営組織を肌で感じながら、その情報交換を絶えず行うことができる立場です。私達商工会議所の青年部員は、鋭敏なる感性で迎える新しい時代を乗り切ることでしよう。その上商工会議所を母体としていることにより、その協力と支援を惜しみなく受ける事ができることも見逃がせないと思えます。

私達商工会議所青年部はこのような恵まれた環境と立場を自覚し、強固な青年部組織の育成と新しい時代への提言や活動をさらに広範に行って行くことではありませんか。

本日ここに開催されます全国大会が、今、述べました本来の目的と思われる事柄を達成し、各青年部の一層の飛躍を遂げられる大きな足掛りとなれば幸せに思います。

秋の動 スポーツ、秋の静 芸術、日展、県美展、個展と芸術の花が満開。「芸術には『眼で描く』と『心で描く』とがある。前者は技術が主となり、眼でみる他なく、後者は心で描き、心で読む、ということになる。何れにしても私は描く主題をなぐく心の中にしまつておいて、よく純化、発酵してから、筆をとるようになっています。これが私の主義です。」とは大観の画談。「大観と言えは富士」と人は言う。だがこれによい、と思う富士はまだない。日本の心を、富士の心を、富士を描くことは、富士にうつる自分の心を描くことだ。これによい、と断言できる作はまだ生まれていない。」よい絵をみてまず打たれるのは作者の心です。そして直観的に何か生命力の深さを感じ、古名画等の奥の深さ、余韻と言ったものは格別です。私達の日常生活、活動、イベント、仕事面においてもそれぞれの商いに余韻を感じさせているだろうか、大切なことである。今日の大会はどの部分で余韻が残るだろうか。

「商工の窓」

全国大会によせる



県青商連会長
山本勝郎

国内では高度成長の時代が過ぎ去り、国外ではドル安に加え経済摩擦の再燃に絶えず脅かされる情勢下です。

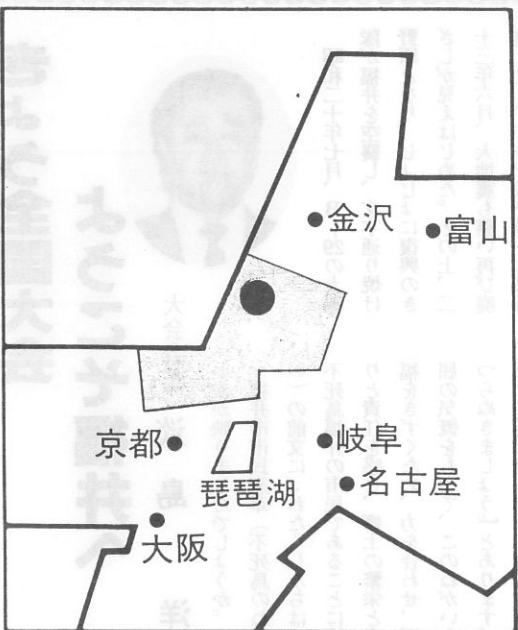
そのようななかでもあり、第五回商工会議所青年部全国大会福井大会は、前回の水戸市で開催された「科学万博」に便乗された大会と違い、大きい催しもありませんが、福井商工会議所青年部創立十周年記念とフェニックスプラザという新建築のこけら落としが出来ます。活かせ英知若さで築こう地域の経済」をテーマに独特の企画で「商青連アワー」や記念講演も金田正二氏、藤本義一氏という知名人をお招き。また、アトラクションでは歌手のジューディ・オングさんの歌を聞きながらゆつくりと福井の味を舌鼓していただきます。これらは今までの大会の物ま

ねでなく、さすが福井大会はずばらしかったと言ってもらえること間違いのないでしょう。内容を企画された大会長、実行委員長以下会員一同の皆さまに深く敬意を表します。

すめ三人、や武生・敦賀・鯖江・勝山の各青年部会から協賛金もさせていただきましたが、福井大会が少しでも盛り上がり、また、花添えになれば幸いです。

全国各地の会員が一堂に会し、相互交流の輪を拓ける。また、親睦等が深まって、それぞれの企業間の商いに何か結びつくこと等が出来るこの絶好の機会に全員が参加し、お互いの研鑽を深めることができます。実りある全国大会になる様ご成功を心から御祈念申し上げます。

県商青連からも応援ということので武生より、菊立おどり、菊む頑張りましょう。



今年も気配り大会に



大会顧問
清水慶造
(商青連副代表幹事)

「随処」とは自分の置かれた場所、今いる所。立体的なもつこと——自分が自分のことのあるかた、小手先でなく、ほんとうに自分は今何をなすべきかと云うことに徹している、今何をしていいかすぐわかる。判断をしてすぐにそれを行動に移していく、自然と言葉もでてくると手も足も動く。これが「主を作る」ことである。人から言われてするのは「客となる」ことである。

「随処」は「随処」(どこにでも)に対し「今ここ」「その場所」で、何処にあっても本当の

ことができる。どこでも自分を投入して惜しまぬ愛情が随処に主となる。「看脚下」ということも随処に主となることで、脚下を看るから立処皆真で、そこにはほんとうの意味が生まれてくる。つまり「自分の置かれた場所、隙のないよう精いっぱいやるなら、どこにあっても真実の姿(輝)では「心」にめぐりあえる。

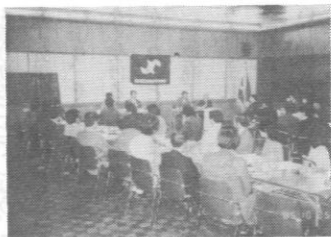
ところで、全国商工会議所青年部連合会が設立され三年目、設立準備より五年目になる。私は設立準備委員に指名を受けて以来、内容充実意義ある青年部連合会に発展するよう基礎づくりの世話を続けてまいりました。今年度、商青連は組織の拡大より拡充として強化の段階に入り、その為の事業活動を推進している。また、全国の商工会議所青年部においては、各々地域のニーズにあった活動・事業を展開することが望まれている。

当、福井商工会議所青年部会においては、昨年度設立十周年を迎え、ようやく一節を形づくったところだが、この十年間、その年度ごとに若さで何かを考えて行動してきた。

そして、今年度は来る十二月九日、第五回商工会議所青年部全国大会を福井市において開催することになり、着々と準備が進められた。前回大会で淡島会長が日本のド真中の福井へ来てんでの(来て下さい!!)とご挨拶をしたが、今や福井の青年部会、そして我々全役員が商青連のまん真中におかれているのである。お互に自覚をし、主体性をもって随処に自分を投入して、そこに生甲斐を感じている昨今である。古川実行委員長以下全役員が各部門における魅力あるユニークさ、そして心配りを徹底的に追求し、気配り大会になるよう一生懸命努力した。

「随処作主、立処皆真」の教えで、私達の体(行為・所作、口)優い言葉、心(もの考え方)とがおみやげになる大会にしたいと考えている。

代表幹事が 激励に来福



安部代表幹事も駆けつけた10月例会

青年部十月例会は二十五日行われ、全国大会直前とあって、宮下

市商工課長と安部各次郎商青連代表幹事が激励に駆けつけた。安部代表幹事は、「実質大会出席者が千人を越す全国大会は福井が初めてです。これも一重に福井の会員の皆様の努力のたまものでしょう。私も大分に独りジツとしておれず、やってきた訳です。皆様の英知を結集して、悔いのない全国大会にして欲しい、精一杯やって欲しい。」と激励を述べた。また例会後、席をスワローを借り切った懇親の場に移した。そこで代表幹事持参の、大分の地酒「いっこん」で大会の成功を期して乾杯。

全国大会キャンペーンに参加して

九州ブロック さわやかなアロハシャツ

福井大会参加キャンペーン・キヤパン皮切りは九州ブロック大会会場。場所は指宿であった。指宿駅に降り立ち「遠く、南の地に来たものだ」と思ったもの。駅前フェニックスが南国の雰囲気を感じ上げた。

大会場では、地元役員が全員柄も美しいアロハシャツがさわやかに生き生きとした活力を感じた。福井全国大会紹介の時間で、淡島会長が参加を呼びかけると、ほとんどの役員が呼応。気持ちの良いことこの上なし。

当てられた宿は全国的に有名なジャングル風呂のある指宿観光ホ

テル。夜、翌朝と、福井から参加した六名は、童心にかえりハシヤぐことしきり。家族連れで来たのが、福井から千キロ以上の距離はチョット遠いなと話していた。

四国ブロック
よくノツタものだ

九月八日福井駅を出発し、京都から岡山まで新幹線。宇野からホーパークラフトにて高松入りして会場に直行というスケジュールでありました。



各ブロック大会で会員参加を呼びかけた。

古川・小川・天野・奥村・東の各メンバーは、おりしも、日航機事故の後だけに、こわがって空路スケジュールを取り入れなかった事を、大して時間的には変わらなとか、一回はホーバーも乗つと

くもんや……とか、理由づけに大わらわでありました。

さて、大会では古川実行委員長の福井大会への参加呼びかけに、大声で呼応していただき、つづいての懇親会では、各テーブルをローラー作戦にて廻りましたが、これまた大会パンフを手にした四国ブロックメンバーに質問責めにされました。

その後の二次会、三次会にも積極的に参加し、大いに飲んで歌って、福井大会の福井商工会議所青年部ここにありの感を残してきたものと思います。

五名とも乗りにくい性格にもかかわらず、よくあれだけやれたなあノと自画自賛しております。(東)

一関ブロック わんこそばに挑戦

東北の「みちのく」のイメージとは逆に、新幹線は田園地帯をひた走る車窓の景色は山並みがあるかに遠くに見える、さすがに東北は広いという感じがする。一関までは、福井から七時間あまり。新幹線ができて、ちよつと遠いかなとを感じるが、実際、北海道の人は十三時間程かけて来たそうだから、

それから見れば楽な方である。

大会の懇親会では、わんこそばの早食い競争等、郷土色豊かな懇親会で、大変盛り上がった。福井からも代表で清水(司)君が参加したが、三十六ばいであえなく敗退した。しかし、その時、清水君



福井県員会参加大会ブロックで、手もちさな福井

は参加の事を知らず、三時ごろにそばを一口と、懇親会の料理も食べた後の三十六ばいという事ですので、彼の名譽のために付け加えておきます。地元の話では、五分間で、八十ばいも食べる人がいるそうで、そばの入る胃袋は、どうも別にあるらしい。

翌日は観光で、中尊寺・毛越寺等々を廻つたが、さすが藤原二代の栄華を随所にとどめ、歴史の重さを感じた次第である。最後に、一関の皆様には温かいもてなしを頂き大変感謝いたしております。

(中村)

中国ブロック

朝の五時に出発

我々が中国ブロック大会に出発のため福井を出たのは朝の五時。夜に強いメンバーはさすがに朝にも強い!!

汽車は米原・大阪・岡山を過ぎ米子に。岡山ではワインとぶどうを買い、その酸っぱいワインの中へ甘いぶどうを入れて全員が飲む。妙な酔い方をして眠くなる。この次からはこれはやめようと思った。大会式典に参加(分科会の発表

はかなり活発で個性的)懇親会でピンゴはちつとも当たらなかつたが、コンパニオンの子が可愛い子だつたのが良かった。



有田市で懇親会大会ブロック

米子青年部代表の加藤君より温かい心遣いをちょうだいし、特に足立美術館を案内していただいた

時は、しばらくぶりの目の保養を

しました。

米子青年部のみなさんどうもありがとう。(天野)

関東ブロック

各地で温いおもてなし

十月一日、鎌倉の中央公民館での関東ブロック大会に出席した我々五名は当日午後一時からの式典において、はからずも来賓扱いを受けた。また、司会者が貴重な時間を割いて、我々を紹介した後、淡島会長が、「おいしい水と、おいしいお米、そして……の福井へ来てくれるかな」と、全国大会へのPRをする、会場に参加した五百余名の仲間達は、一斉に「いいとも!」と大きな声で呼応。また、懇親会では、和やかな雰囲気の中各地の会長と、全国大会、経済情勢等々について語り合った。秋の夜長とはいえ、時の経つのも忘れる程であった。こうして、感銘深い鎌倉大会は終わった。我々五名の心は福井大会の成功に向かつて大きく走り始めた。(友田)

意義ある参加

いざ出陣!

部員十人、ワゴン車に乗り台風接近中のため、強風と秋雨にもま

れながら富山めざしひとつばしり。約一時間半後、富山市内に到着。思ったよりは大きな街である。車



こんな一大会でもありました。ブロック大会もコマ

でクルクル廻つても商店街がとだえない。ホテル到着。待ち時間にロビーでお土産をみたり、時間をつぶす。五箇山和紙の紙壺人形が並んでいた。顔の表情一つ一つ違い、手作りの暖かさを感じた。また、ホテルの前を市電が走っていたが、ゴーゴーと音を立て活気があつた。この活気を福井の街にも……。会員大会、懇親会では必死の福井大会のPR。懇親会では、クイズ大会等もあり、より一層なごやかな雰囲気がつくられていた。

富山はブロックこそ連え、同じ北陸。会長いわく、兄弟の仲である。私は初のキャラバン隊参加、多少緊張していましたが、大変楽

しく意義ある参加ができたと思んでいます。PR用の幕掲げると上半身すっぽり隠れてしまう私ですが、福井大会に向けて小さい力で頑張ります。私の出来ること見つけた。

近畿・東海ブロック

確かな手応え

これまでに数々のキャラバン隊が全国各地に本大会の参加を呼びかけてまいりました。そしてさる十月八日、淡島会長を先頭に総勢二十六名が最後のキャラバン隊として、和歌山県、有田市で行われました第三回近畿・東海ブロックの運営研究会に参加してまいりました。

当地では好天に恵まれ、また温かく迎えていただき、にぎやかで楽しいキャラバンとなりました。式典の中で、また研究会終了後の懇親会の中でも我々の全国大会のPRの時間を設けていただき、全員で全国大会参加を呼びかけてまいりました。会場の皆さんからも確かな手応えもございました。当日まであとわずかですが、皆で力を合わせてがんばりましょう。(上野)